

話し合いから実践へ～集落営農の新たなチャレンジ～

対象者 甲賀地域の集落営農法人

【普及活動のねらい】

これまで、当普及指導センターでは集落営農法人に対して、多くの人の意見を効率的に集約することが可能なワークショップ手法の一つである「地域診断」を推進してきました。

「地域診断」では、地域や組織が抱える課題をテーマに意見集約を行い、組織継承のための若手の参画方策や、収益性の改善のための対策など、法人組織の構成員が納得できる戦略づくりと、その実践活動について支援してきました。

【普及活動の内容】

地域診断の実施と戦略の策定、実践支援

「地域診断」では、普及指導職員がファシリテータを務め、課題ごとに「できること」、「改善すること」、「導入するもの」について意見を出してもらい、出てきた意見をグループ化し課題整理を行いました。

グループ化された意見は、重要度と実施可能性で順位付けし、法人で取り組む実践項目をまとめました。さらにこのまとめ結果をもとに法人の理事会で今後の具体的な取組（戦略）について協議し、その合意形成を図りました。

樹立された戦略については、集落役員と連携し実現に向けてのアドバイスや技術改善指導などを行いました。



ワークショップによる話し合い

【普及活動の成果】

普及活動の結果、4年間で6つの法人（集落）が「地域診断」による話し合いを実施し、現在それぞれの法人で戦略に基づく実践活動に取り組まれています。

そのなかで、U法人（集落）では、「地域診断」で「田んぼアート」の継続実施、水稻の生産性向上について当面取り組むべき課題として整理され、改善に向けて実践活動に取り組まれています。

「田んぼアート」については、「しがのふるさと支えあいプロジェクト」の取組につながり、地元高校などからの支援を得る体制ができました。また、水稻の生産性向上対策については、堆肥施用による米の単収向上や、新たな米づくりとして「あいがも米」に挑戦されています。これらの取組により、今年度は米の単収が約3割増加するなど収益改善に向けて動き出しました。また、「あいがも米」は、「田んぼアート」のお付き合いから地元高校とのコラボが実現し「卵かけご飯セット」として販売されるなど、集落を大いにPRでき地域の活性化につながりました。